

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

7-23-04

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 3月26日
Date of Application:

出願番号 特願2003-086029
Application Number:

ST. 10/C] : [JP2003-086029]

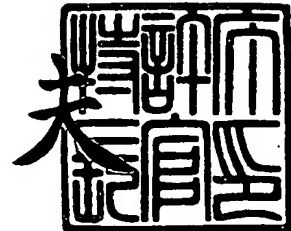
願人 ソニー株式会社
Applicant(s):

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2004年 1月28日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2004-3003537



【書類名】 特許願

【整理番号】 0390110701

【提出日】 平成15年 3月26日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G11B 7/00

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
 内

 【氏名】 山口 正人

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
 内

 【氏名】 安藤 伸彦

【特許出願人】

 【識別番号】 000002185

 【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100122884

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 角田 芳末

 【電話番号】 03-3343-5821

【選任した代理人】

 【識別番号】 100113516

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 磯山 弘信

 【電話番号】 03-3343-5821

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 176420

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0206460

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ディスク記録再生装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ディスクが排出位置と、上記ディスクが上記排出位置から引き込まれ光学ピックアップによる書き込み／読み出しが行われる書き込み／読み出し位置と、上記書き込み／読み出し位置に対して光学ピックアップの対物レンズより距離を離してディスクを保持する待機位置とに動作可能にしたことを特徴とするディスク記録再生装置。

【請求項 2】 請求項 1 記載のディスク記録再生装置において、

上記ディスクの待機位置では、上記光学ピックアップの対物レンズが可動範囲内で移動してもディスク面に接触しないだけの対物レンズからディスク面までの距離が確保されていることを特徴とするディスク記録再生装置。

【請求項 3】 請求項 1 記載のディスク記録再生装置において、

上記ディスクの待機位置は、ディスクを書き込み／読み出し位置から排出方向へ垂直に引き上げられる動作の途中で停止することを特徴とするディスク記録再生装置。

【請求項 4】 請求項 1 記載のディスク記録再生装置において、

上記ディスクの待機位置は、ディスクを書き込み／読み出し位置から排出方向へ垂直に引き上げられる動作を行うスライド板がスイッチの接点ピンを操作することで検出されることを特徴とするディスク記録再生装置。

【請求項 5】 請求項 1 記載のディスク記録再生装置において、

上記ディスクがカートリッジ式のディスクであることを特徴とするディスク記録再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えばカートリッジ式の光ディスク等が適用されるディスク記録再生装置に関し、詳しくは、ディスクへの書き込みや読み出しを行わない待機位置では光学ピックアップの対物レンズより離れた位置にディスクを保持することで

、対物レンズとディスクとの衝突を防止するようにしたものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

近年、光ディスクの高密度化，高容量化の目的を達成するため光学ピックアップの対物レンズの開口数（率）が大きくなる傾向にある。従って、対物レンズの焦点距離が短くなることから、対物レンズとディスク面との距離、いわゆる、ワーキングディスタンスは小さくなってきている。このため、記録，再生中におけるディスクの面ブレ等を吸収してフォーカスを制御するための対物レンズの可動距離よりもワーキングディスタンスの方が距離が小さくなる場合もでてきている。このような場合には、対物レンズの可動範囲を予め制限し対物レンズとディスクとの衝突を防止することはできず、このための対策として書き込みや読み出し動作時には対物レンズのフォーカス調整駆動を強化し衝突を防止する等の方法がとられることもある。

【0 0 0 3】

【特許文献 1】

特開平 7 - 9 8 8 7 5 号公報

【0 0 0 4】

【特許文献 2】

特開 2 0 0 2 - 2 5 1 7 5 8 号公報

【0 0 0 5】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、書き込みや読み出し動作が一時中断された状態であって、対物レンズのフォーカス駆動回路が通電されていないディスクの待機状態では、上述したような対物レンズの衝突防止の方法をとることはできない。そこで、従来の方法として例えば〔特許文献 1〕のように、フォーカス駆動回路の非通電時に対物レンズをその可動範囲内でディスクから遠く離間させた位置に移動させた状態で永久磁石と磁性体との磁気吸引力で固定したり、また、〔特許文献 2〕のように、フォーカス駆動回路の非通電時に対物レンズをディスクから退避する位置に電磁力によって吸着固定する方法等が提案されている。

【 0 0 0 6 】

しかし、光学ピックアップの内部は狭いスペース内にレーザー光源やビームスプリッタ等、多くのパーツが収納されており、従って、対物レンズを退避し固定するための機構を光学ピックアップに設けることは、光学ピックアップの小型化や軽量化を図る上から必ずしも容易ではなかった。

【 0 0 0 7 】

本発明は、上述したような課題を解消するためになされたもので、フォーカス駆動回路が通電されていないディスクの待機状態にあって、対物レンズに対してディスクの距離を広くとることによって、振動や衝撃等が生じても対物レンズのディスク面への衝突を防止することのできるディスク記録再生装置を得ることを目的とする。

【 0 0 0 8 】**【課題を解決するための手段】**

上述の目的を達成するため本発明によるディスク記録再生装置は、ディスクの書き込み／読み出し位置に対して光学ピックアップの対物レンズより距離を離れた待機位置にディスクを保持するようにしたものである。

【 0 0 0 9 】

例えば、ディスクの待機位置では光学ピックアップの対物レンズが可動範囲内で移動してもディスク面に接触しないだけの対物レンズからディスク面までの距離を確保するようにしたものである。

【 0 0 1 0 】

上述したディスク記録再生装置によれば、ディスクを光学ピックアップの対物レンズより距離を離れた待機位置にディスクを保持するようにしたことで、ディスクが排出方向の移動経路の途中でディスクを保持するだけでよいので、従来技術のように光学ピックアップ側をディスクから退避するような固定手段を必要とすることもなく、振動や衝撃等により対物レンズがディスク面に衝突するのを防止できる。

【 0 0 1 1 】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明によるディスク記録再生装置の実施の形態をディスクとしてカートリッジ筐体内に格納された光ディスク（以下、ディスクカートリッジという）を用いた場合を例にとって図面を参照して説明する。

【0012】

図1はディスク記録再生装置（以下、ディスクドライブ装置という）の一部を分離した状態の斜視図、図2はディスクドライブ装置に対してディスクカートリッジが排出位置にある側面図、図3はディスクカートリッジが待機位置にある側面図、図4はディスクカートリッジが書き込み／読み取り位置にある側面図である。

【0013】

まず、記録媒体であるディスクカートリッジCについて説明する。

円盤状の光ディスク（以下、ディスクという）1は上ハーフと下ハーフとを一体に貼り合わせたカートリッジ筐体2内に回転可能に格納されている。カートリッジ筐体2の一方側にはスライド式に開閉可能のシャッター板3を有し、このシャッター板3が開放されることでカートリッジ筐体2の上下面の窓孔が開口し、この窓孔からディスク1の一部が径方向に亘って露見するようになっている。例えば、カートリッジ筐体2の上面の窓孔より図示しない磁気ヘッドによりディスクにバイアスをかけ、下面の窓孔より後述する光学ピックアップからディスク面にレーザー光を当て、反射するレーザー光を検出することによってディスクの書き込みや読み取りが行われるようになっている。尚、符号4はディスクドライブ装置にディスクカートリッジCを挿入する方向を示すマーカーである。

【0014】

次に、ディスクドライブ装置について説明する。

符号5がディスクドライブ装置の基板を構成するシャーシで、シャーシ5上には当該シャーシの裏面側に配置した図示しないスピンドルモータにより回転駆動されるターンテーブル6がある。このターンテーブル6にはディスクカートリッジ2の筐体内に格納したディスク1をそのセンター孔1a回りを保持するチャッキング部7が設けられている。

【0015】

また、ターンテーブル 6 に隣接するようにしてシャーシ 5 に開口した窓孔 8 から臨むようにして対物レンズ 9 を備えた光学ピックアップ 10 が配置されている。この光学ピックアップ 10 はターンテーブル 6 にチャッキングされたディスクに対して径方向、つまり回転するディスクのトラックと直交方向に移動し、ディスクに情報を書き込んだり、ディスクに記録されている情報を読み出したりすることができるようになっている。

【0016】

また、シャーシ 5 上にはディスクカートリッジ C を書き込み／読み取り位置に正確に保持するための前後一对の高さ決め台 11 a, 11 b と、高さ決めを兼ねる位置決め台 12 a, 12 b が設けられている。

【0017】

上述したシャーシ 5 上にはハウジング 13 があり、ハウジング 13 内にディスクカートリッジ C を保持するためのホルダー 14 がある。以下、ホルダー 14 の動きの機構について説明する。尚、ホルダー 14 は左右に同じ機構が設けられて同位相で動くため一方側の機構についてのみ説明し、他方側の同一部分については符号にアルファベットを付して示す。

【0018】

ホルダー 13 はその側面から前後一对のピン 15, 15 が突出していて、両ピン 15, 15 はハウジング 13 の側面板 13 a に形成した前後一对のホルダー移動のための横 L 字形の水平ガイド溝 16, 16 に貫通してハウジング 13 に支持されている。また、水平ガイド溝 16, 16 のそれぞれの端部には下方向に短い垂直ガイド溝 17, 17 が形成されている。

【0019】

また、ホルダー 13 の側面板 13 a の外側面にはスライド板 18 がある。スライド板 18 には前後一对の水平なガイド孔 19, 19 が形成されていて、両ガイド孔 19, 19 にハウジング 13 の側面板 13 a から突設したガイドピン 20, 20 が係合され、スライド板 18 が前後方向に水平に移動可能にされている。

【0020】

また、スライド板 18 にはガイド孔 19, 19 にそれぞれ隣接するようにして

傾斜状のカム溝 21, 21 が形成されていて、両カム溝 21, 21 に上述したハウジング 13 の水平ガイド溝 16, 16 を貫通したホルダー 13 からのピン 15, 15 が係合されている。

【0021】

さらにスライド板 18 の後方上辺にはラック 22 が形成されていて、このラック 22 にハウジング 13 に支持されたピニオン 23 が噛み合っている。ピニオン 23 の軸はハウジング 13 の他側面側にも延びピニオン 23 a を備えている。このピニオン 23 a にスライド板 18 a の図示しないラックと噛み合っている。そして、一方側のピニオン 23 に減速歯車群 24 を介して DC モータ等からなる駆動モータ 25 の出力軸に接続されている。

【0022】

また、スライド板 18 の後方下辺には、その後端部に後述する検出スイッチの接点ピンを押圧操作する突起状の第 1 のスイッチ操作部 26 と、第 1 のスイッチ操作部 26 より前方側に同じく検出スイッチの接点ピンを押圧操作する第 2 のスイッチ操作部 27 が形成されている。第 1 のスイッチ操作部 26 と第 2 のスイッチ操作部 27 との間は接点ピンを押圧操作しない凹面部 28 になっている。

【0023】

そして、上述した第 1 及び第 2 のスイッチ操作部 26, 27 を有するスライド板 18 の下方に対峙するようにしてシャーシ 5 側に検出スイッチ 29 を備え、検出スイッチ 29 に第 1 の接点ピン 30 と第 2 の接点ピン 31 が隣接するようにして上向きに設けられている。

【0024】

尚、図 3 及び図 4 については減速歯車群 24 及び駆動モータ 25 は省略してある。

【0025】

次に、上述のように構成したディスクドライブ装置の動作を図 2 ～図 4 について説明する。

【0026】

図 2 はディスクドライブ装置からディスクカートリッジ C が排出位置にされた

動作状態であり、このとき、検出スイッチ 29 の第 1 の接点ピン 30 はスライド板 18 の第 1 のスイッチ操作部 26 に押圧されオン状態となり、第 2 の接点ピン 31 はスライド板 18 の凹面部 28 に位置しオフ状態となり、この両接点ピン 30, 31 のオン, オフの組み合わせによりディスクカートリッジ C の排出位置を検出している。

【0027】

図 2 の排出位置からディスクカートリッジ C の書き込み／読み取りを選択すると、駆動モータ 25 が駆動し減速歯車群 24 を介してピニオン 23 が回転され、ピニオン 23 に噛み合っているラック 22 を介してスライド板 18 が引き込まれる。そして、スライド板 18 の引き込み動作に連動してディスクカートリッジ C が装填されたホルダー 14 がハウジング 13 の水平ガイド溝 16, 16 に沿ってピン 15, 15 が移動し引き込まれる。そして、ピン 15, 15 が水平ガイド溝 16, 16 の端部に達したあと、スライド板 18 がさらに引き込まれることでカム溝 21, 21 の作用によりピン 15, 15 が垂直ガイド溝 17, 17 側に移動し、ホルダー 14 と共にディスクカートリッジ C が下降し図 4 に示した書き込み／読み取り位置になる。

【0028】

ここで、検出スイッチ 29 はスライド板 18 が排出位置から引き込まれることで、第 1 及び第 2 の接点ピン 30, 31 が共に凹面部 28 によって一旦オフ状態となり、書き込み／読み取り位置では第 1 及び第 2 の接点ピン 30, 31 が共に第 2 のスイッチ操作部 27 によって押圧操作され書き込み／読み取り位置を検出している。この書き込み／読み取り位置において光学ピックアップの対物レンズのフォーカス制御回路が通電状態となりディスクへの書き込みあるいは読み取り動作が行われる。

【0029】

ここで、ディスクカートリッジ C を図 4 に示した書き込み／読み取り位置から待機位置を選択すると、図示しない駆動モータが逆転しスライド板 18 が送り出されることで、ホルダー 14 のピン 15, 15 がハウジング 13 の垂直ガイド溝 17, 17 に沿って上方へ移動し、ディスクカートリッジ C と共にホルダー 14

が僅かに上動して停止する待機位置となる。すなわち、スライド板 18 が引き込み動作とは逆方向に送り出されることによって、検出スイッチ 29 は第 1 の接点ピン 30 が第 2 のスイッチ操作部 27 から凹面部 28 へ移動し、図 3 に示すように第 1 の接点ピン 30 がオフ状態となり、第 2 の接点ピン 31 はオン状態のままとなる。この両接点ピン 30, 31 のオフ, オンの組み合わせによりディスクカートリッジ C の待機位置を検出している。そして、この待機位置では光学ピックアップの対物レンズはフォーカス制御が非通電状態となる。

【0030】

尚、ディスクカートリッジ C が待機位置から再び書き込み／読み取りを選択すると、スライド板 18 が引き込まれホルダー 14 と共にディスクカートリッジ C が下降し図 4 に示した書き込み／読み取り位置になる。そして、検出スイッチ 29 は書き込み／読み取り位置では第 1 及び第 2 の接点ピン 30, 31 が共に第 2 のスイッチ操作部 27 によって押圧操作され書き込み／読み取り位置を検出することになる。

【0031】

ここで、ディスクカートリッジ C が排出位置と待機位置及び書き込み／読み取り位置におけるディスク 1 面と光学ピックアップ 10 の対物レンズ 9 との距離について図 5 ～図 7 を参照して説明する。

【0032】

図 5 はディスクカートリッジ C が排出位置でのディスク 1 面と対物レンズ 9 との距離を示したものであって、ディスク 1 面と対物レンズ 9 とは十分な距離 S を有し、しかも、ディスク 1 面はディスクカートリッジ C のシャッター板 3 により保護されている。

【0033】

図 7 はディスクカートリッジ C が書き込み／読み取り位置でのディスク 1 面と対物レンズ 9 との距離を示したものであって、この場合、ディスク 1 面と対物レンズ 9 とは最も接近した距離 S1 にある。また、書き込み／読み取り状態ではディスクの面ブレ等を吸収してフォーカス制御するため対物レンズ 9 は所定量可動する。

【 0 0 3 4 】

図 6 はディスクカートリッジ C が待機位置でのディスク 1 面と対物レンズ 9 との距離を示したものであって、この場合、待機位置では対物レンズ 9 はフォーカス制御回路が非通電状態にあって、対物レンズ 9 が可動範囲内で移動してもディスク 1 面に対し対物レンズ 9 が接触しないだけの距離 S 2 が確保されている離間状態である。

【 0 0 3 5 】

このように本発明によれば、ディスクカートリッジ C を待機位置に停止させることによって、対物レンズ 9 のフォーカス制御回路が非通電状態であっても、対物レンズ 9 とディスク 1 面との距離を充分広くとることができ、これによって、振動や衝撃等により対物レンズ 9 がディスク面に衝突することを未然に防止することができる。

【 0 0 3 6 】

また、特許文献 1, 2 に示した技術のように対物レンズをディスクから離れた位置に退避させるような機構ではなく、本発明はディスクカートリッジ C が書き込み／読み取り位置から排出方向に移行するときに垂直方向に引き上げられる途中でディスクを待機位置に停止するようにしたので、光学ピックアップに変更を加えることなく容易に実施可能である。また、ディスクドライブ装置全体が大型化することもない。

【 0 0 3 7 】

本発明は、上述しかつ図面に示した実施の形態に限定されるものでなく、その要旨を逸脱しない範囲内で種々の変形実施が可能である。

【 0 0 3 8 】

本例の実施の形態では、光ディスクが格納されたディスクカートリッジの場合について説明したが、その他、光磁気ディスクが格納されたディスクカートリッジや MD（ミニディスク）のディスクドライブ装置にも広く適用可能である。

【 0 0 3 9 】**【発明の効果】**

以上説明したように本発明によるディスク記録再生装置は、ディスクの書き込

み／読み出し位置に対して光学ピックアップの対物レンズより距離を離れた待機位置にディスクを保持するようにしたので、対物レンズのフォーカス制御回路が非通電状態で動かない状況であっても、対物レンズとディスク面との距離を充分広くとることができ、振動や衝撃等により対物レンズがディスク面に衝突することを未然に防止することができるといった効果がある。

【0 0 4 0】

また、ディスクが書き込み／読み取り位置から排出方向に移行するときに垂直方向に引き上げられる途中でディスクを待機位置に停止するようにしたので、小型精密に作られている光学ピックアップに機構上の変更を加えることなく容易に実施可能である。また、ディスク記録再生装置全体が大型化することもない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明のディスク記録再生装置が適用されるディスクドライブ装置の一部分離状態の斜視図とディスクカートリッジの外観斜視図である。

【図 2】

ディスクドライブ装置のディスク排出位置動作の側面図である。

【図 3】

同じくディスクドライブ装置のディスク待機位置動作の側面図である。

【図 4】

同じくディスクドライブ装置のディスク書き込み／読み取り位置動作の側面図である。

【図 5】

ディスク排出位置におけるディスク面と対物レンズとの距離の示した部分断面正面図である。

【図 6】

ディスク待機位置におけるディスク面と対物レンズとの距離の示した部分断面正面図である。

【図 7】

ディスク書き込み／読み取り位置におけるディスク面と対物レンズとの距離の

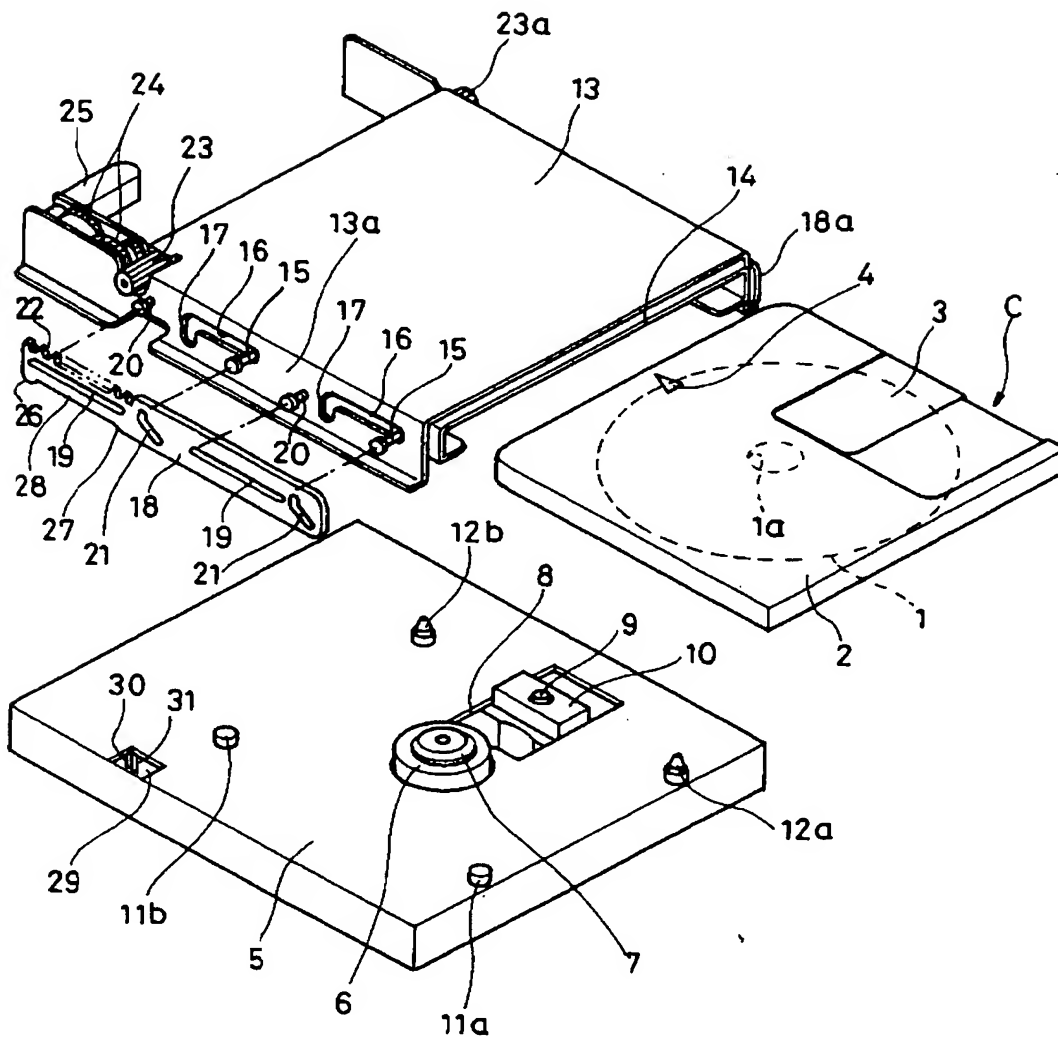
示した部分断面正面図である。

【符号の説明】

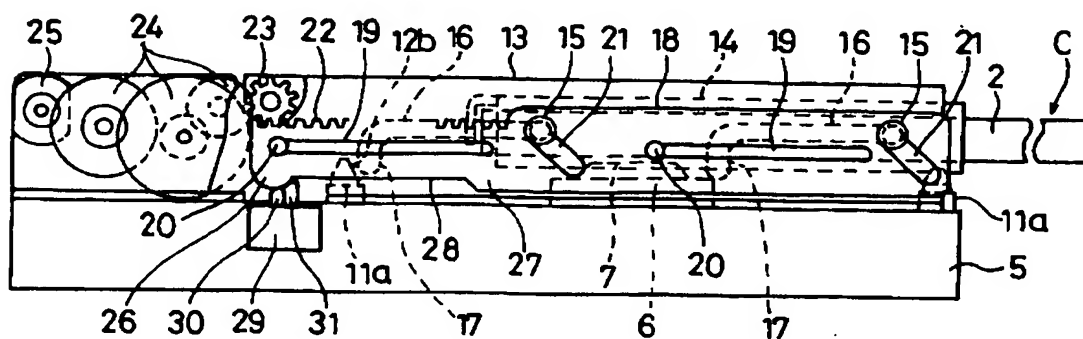
1…光ディスク、2…カートリッジ筐体、5…シャーシ、6…ターンテーブル、9…対物レンズ、10…光学ピックアップ、13…ハウジング、14…ホルダー、15…ピン、16…水平ガイド溝、17…垂直ガイド溝、18…スライド板、22…ラック、23…ピニオン、24…減速歯車群、25…駆動モータ、26…第1のスイッチ操作部、27…第2のスイッチ操作部、28…凹面部、29…スイッチ、30…第1の接点ピン、31…第2の接点ピン、C…ディスクカートリッジ

【書類名】 図面

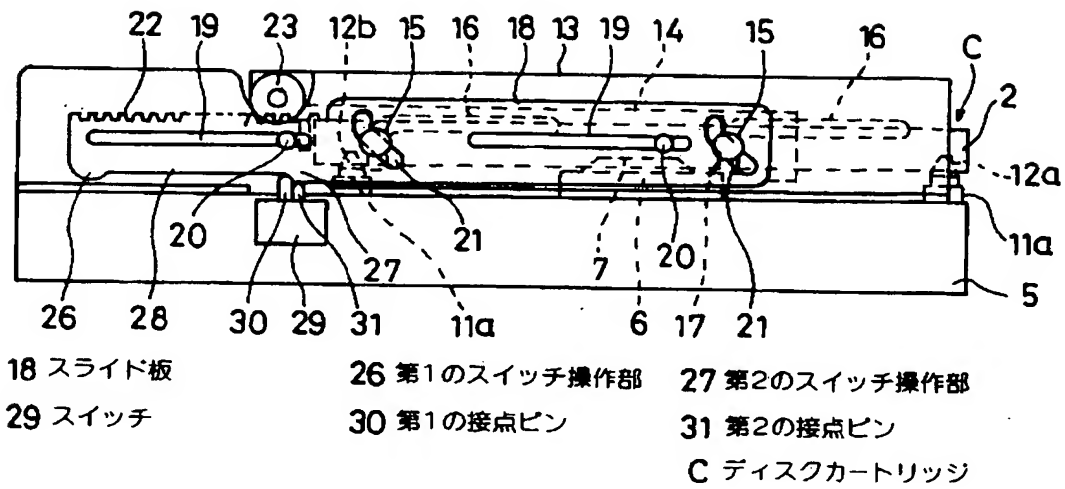
【図 1】



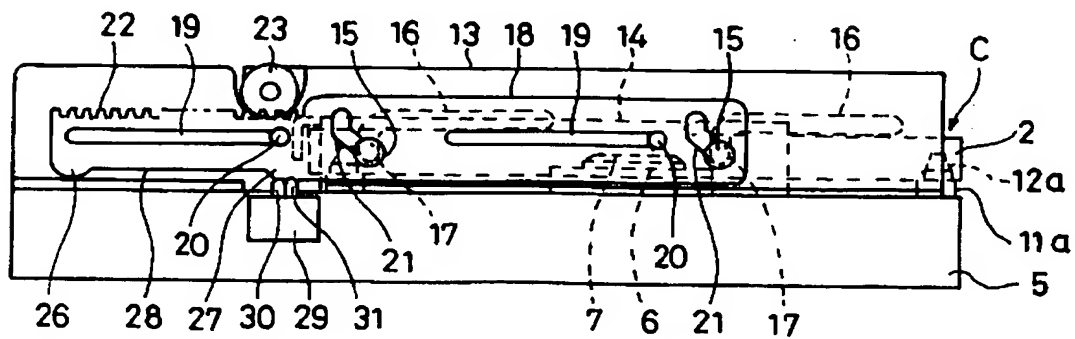
【図 2】



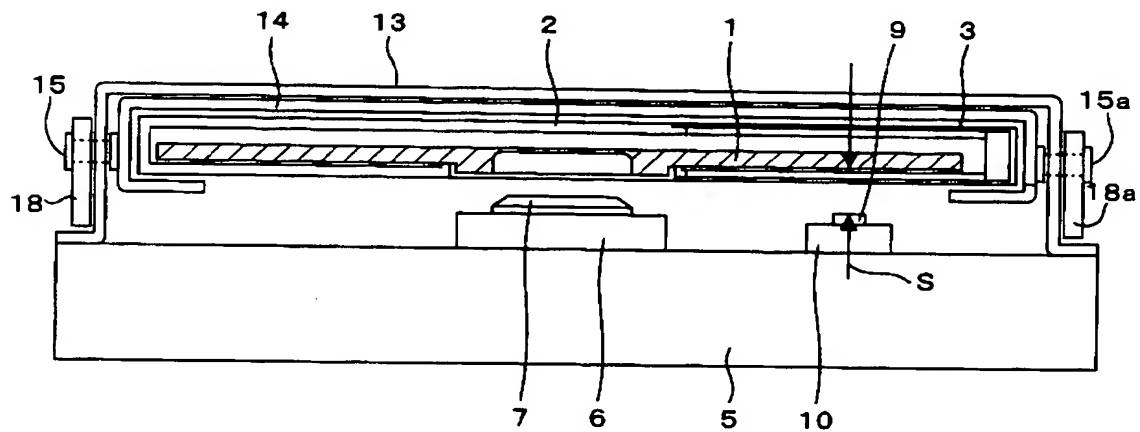
【図 3】



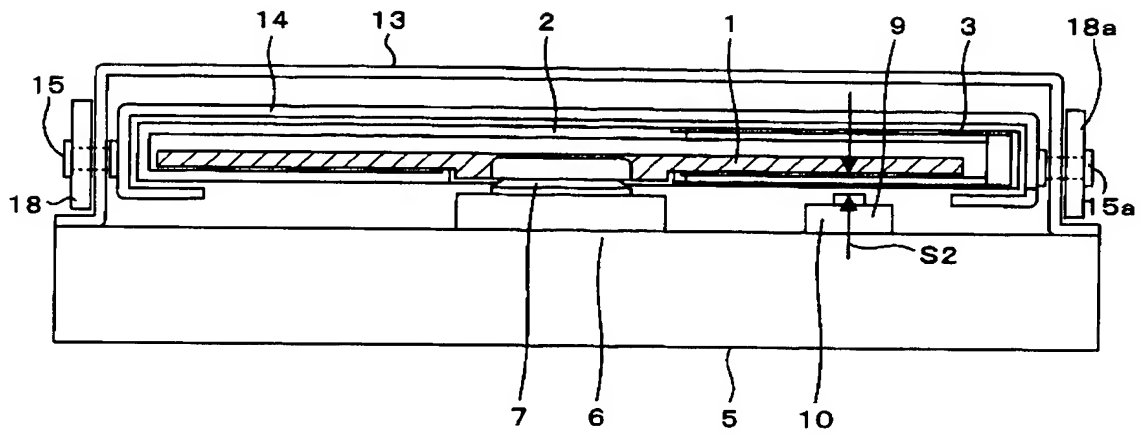
【図 4】



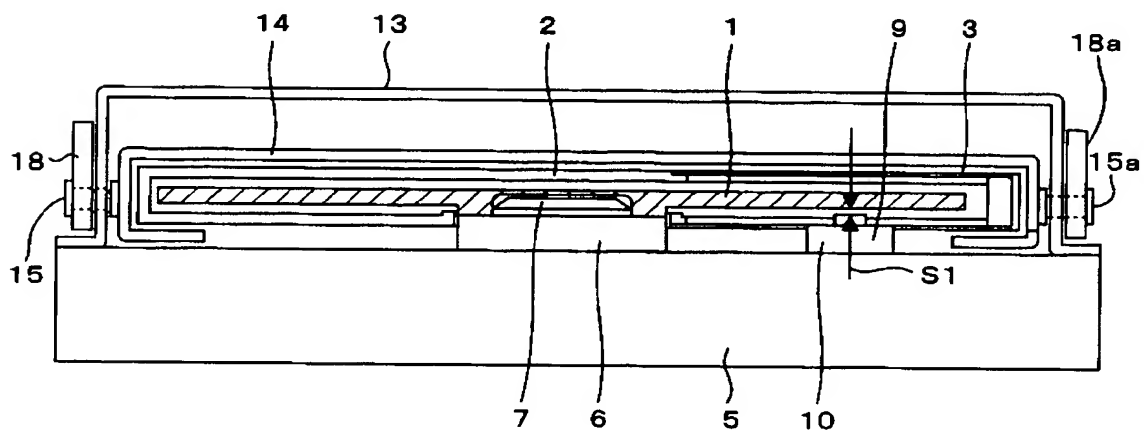
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 フォーカス駆動回路が通電されていないディスクの待機状態にあって、対物レンズに対してディスクの距離を広くとることによって、振動や衝撃等が生じて対物レンズのディスク面への衝突を防止することのできるディスク記録再生装置を得る。

【解決手段】 ディスクカートリッジCが排出位置と、ディスクカートリッジCが排出位置からホルダー14に挿着されて引き込まれ光学ピックアップによる書き込み／読み出しが行われる書き込み／読み出し位置と、書き込み／読み出し位置に対して光学ピックアップの対物レンズより距離を離してディスクカートリッジCを保持する待機位置とに動作可能にされ、ディスクカートリッジCの待機位置は、ディスクカートリッジCを書き込み／読み出し位置から排出方向へ垂直に引き上げられる動作の途中でスライド板18がスイッチ29の第2の接点ピン31を操作することで検出するようにした。

【選択図】 図3

**認定・付加情報**

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 0 8 6 0 2 9
受付番号	5 0 3 0 0 4 9 5 1 0 3
書類名	特許願
担当官	第八担当上席 0 0 9 7
作成日	平成 1 5 年 3 月 2 7 日

< 認定情報・付加情報 >

【特許出願人】

【識別番号】	000002185
【住所又は居所】	東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号
【氏名又は名称】	ソニー株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】	100122884
【住所又は居所】	東京都新宿区西新宿 1 丁目 8 番 1 号 新宿ビル 信友国際特許事務所

【氏名又は名称】	角田 芳末
----------	-------

【選任した代理人】

【識別番号】	100113516
【住所又は居所】	東京都新宿区西新宿 1 丁目 8 番 1 号 新宿ビル 松隈特許事務所

【氏名又は名称】	磯山 弘信
----------	-------

次頁無

特願 2 0 0 3 - 0 8 6 0 2 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 1 8 5]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

氏 名

ソニー株式会社